

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566) 22-2111
FAX (0566) 25-2111
メール kariyac@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 鈴木 豊
幹事 小川 耕示
会報委員長 丹羽 克誌

2013 ~ 2014年度 国際ロータリー ロンD. バートン 会長テーマ

Engage Rotary Change Lives ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2841回例会プログラム

[当年度=33回目；当月=3週目]

2014年（平成26年）4月21日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……
それこそロータリー
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 幹事報告
9. 出席報告
※第3四半期皆出席の発表(出席委員会)
10. 委員会報告
11. ニコニコボックス報告
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(4/28) ……休 会
(クラブ定款第6条第1節(c))
(5/5) ……休会(法定休日)
(5/12) ……
クラブフォーラム(社会奉仕委員会)
卓話 「学校訪問コンサート報告とミニコンサート」
講師 刈谷音楽協会
副理事長 橋 典子 様
(紹介者 鈴木文三郎 会員)

2. クラブフォーラム……………〈雑誌委員会〉

- 13:00 卓話 「ロゴマークについて」
講師 雑誌委員会委員長 中林 久美 会員
13:15 新入会員アワー 都築 浩介 会員
13. 謝 辞
14. 点 鐘……〈会長〉
15. 閉会宣言
13:30 16. 散 会

ビ ジ タ ー

名古屋東山 RC もりかわ たつゆき 森川 辰幸 様 (副会長)
知立 RC さいとうけん たろう 齊藤憲太郎 様

出 席

会員総数 94名 出席免除 26名
出席義務者+免除者の内例会出席者 87名
欠 席 6名 出席率 93.10%
前々回(4/7)の修正出席率 100%

幹 事 報 告

- 1) 本日、例会終了後、事務局にて理事会を開催致しますので、ご関係の方はご集合下さい。
2) 5月2日金曜日から5月6日火曜日まで事務局のゴールデンウィーク休暇になります。

委 員 会 報 告

●環境保全委員会

- 1) 例年通りみどりの羽根の募金の依頼が来ていますのでご協力よろしくお願ひします。

会 長 あ い さ つ

「おのおの、その志のまま生きよ」

鈴木 豊



毎年4月になると、私の会社にも新入社員が入社してきます。数年前の新人研修のおり「おのおの、その志のまま生きよ」という司馬遼太郎著『龍馬がゆく』の中で、坂本龍馬が言った言葉を引用したことがあります。

それは最近の若い社員が夢を持たず、マニュアル通りに仕事に取り組んでいる姿に、人間としての迫力を感じられなくなったからです。なぜ、私がこの言葉が好きに

なったかと言うと『龍馬がゆく』執筆に関わるあるエピソードがあるからです。

あるとき、司馬の産経新聞の後輩である高知県出身の渡辺司郎（元大阪市教育委員会委員長）が訪れ「これは仕事で言っているのではなくて、自分の国の土佐には坂本龍馬という男がいる。龍馬を書いてくれ」と懇願しました。司馬は乗り気にならなかったが、後日他の資料を調べていると、不思議と坂本龍馬が出てきて親しみを覚え、本格的に坂本龍馬を調べ始めたと言われます。この小説は、4年間にわたって新聞に掲載され、後に書籍や映画化、テレビドラマ化され、現在の坂本龍馬像ができあがったのです。

昭和30年代、全国的にほとんど無名であった坂本龍馬を、国民的英雄に生まれ変えたのは、司馬遼太郎の小説もさることながら、産経新聞記者・渡辺司郎の「郷土の英雄を全国の人に知ってもらいたい」という熱い情熱にあったと言っても過言ではないでしょう。

私は名言「おのおの、その志のままいきよ」は、坂本龍馬が若い志士に言った言葉であると同時に、渡辺の志を誉め称えた言葉ではなかったかと思っています。

卓 話

「ロータリーのロゴマークについて」

雑誌委員会委員長 中林 久美 会員



イメージ向上

なぜイメージの向上が必要だったのでしょうか？

ロータリーは100年以上にわたり、会員の職業の知識やスキルを生かして地域社会に貢献してきました。

しかし、このようなロータリーの活動は一般にはほとんど知られていません。

「ロータリーとは何か」「他の団体とどう違うのか」「なぜロータリーは大切なのか」を理解してもらうと言う課題に直面する今、ロータリーを人びとに伝える方法を考え直す必要性が生じています。

2011年より、ロータリーは、イメージ向上を目的とした取り組みを開始しました。

その目的は、ロータリーに対する理解を促進することそして、現会員や入会見込み者、寄付をして頂ける方、職員の関心とモチベーションをたかめ、行動をうながすことです。

これまでの経緯

この取り組みは、ロータリーの魅力や独創性を定義することから始まり世界各地で行われた調査の結果を基に、次のことが行われました。

ロータリーのエッセンスを定義する

他の団体との違いを明らかにする。

価値観を行動とした表現する抽象的な言葉に具体性を

与える。

ボイスを確立

ロータリーの独自性を反映させる。

明確で分かりやすい表現を使用

ロータリーは何をする団体か、どのように参加できるのかを理解しやすくする。

ビジュアルアイデンティティをリフレッシュ

伝統を引き継ぎながら、生き生きとしたデザインに。

私たちがすべきこと

ロータリーを生き生きと伝えるうえで必要なのは、すべてのロータリアンがロータリーの一員として自覚を持つことです。

コミュニケーションをする際に、ロータリアンが、ロータリーを守り推進し、効果的に伝えることが重要です。

ロータリーのイメージに統一性を持たせることにより、ロータリーへの認識が高まり、ロータリー内外すべての人びとにロータリーの体験を生き生きと感じ取ってもらうことができるためです。

これまでにロータリーとは何か？と言うことの中で、全世界で調査をしました。

①ロータリアンは社会的・倫理的に責任あるリーダーである

②「人と人とのつながり」は、これまでロータリーの原動力であり、今後もそれは変わらない

③単なる世界的影響でなく、「世界中の地域社会に影響を与える」のがロータリーである

と言う3つの点が明らかになりました。

調査で得られた洞察を基に、どくじせいをわかりやすく、魅力ある形で伝えるために、リーダーを、肩書きではなく、「考え方」や行動で定義し、人と人とのつながりや、地域社会に根ざした組織であることを強調し、ロータリーだからこそ可能な影響力で世界中の地域社会に持続可能な変化をもたらすことを強調しようと言う事です。

次にロータリーの価値観・ボイスの重要性・ロータリーのエッセンスと分類と枠組み・ロゴのシステム・ロータリーの呼び方・視覚的ツールキットとありますが、ここで本題のロゴと「誇りのシンボル」にはいります。

長年にわたり、ロータリーの「歯車」が資料や掲示板でロゴとして使われてきました。

この歯車には、ロータリーインターナショナルという文字が入っておりますが文字が小さい為に遠くからは読みづらいものとなっております。

その結果、一般の多くの方々にはロータリーの存在や貢献に気が付かないことがあります。

ロータリーのロゴに「Rotary」という文字を入れたのは、このためです。

これがロータリーの公式ロゴであり、可能な限り、このロゴを表示するようにして下さい。

また、公式ロゴのほかに、ロータリーの歯車を大きく

表示したのが「誇りのシンボル」です。

このような表示によって強いインパクトを与えることができます。

ただし、「誇りのシンボル」は公式ロゴの近接位置に表示する必要があります。

最後にロータリーの徽章について世界中のロータリアンが共通して身につける徽章ピンのデザインに変更はありません。

新入会員アワー

都築 浩介 会員



私は高校時代、ゴルフ部に所属していました。校内にある野球場の外野側に小さな練習場があり、そのネットに向けて毎日ボールを打っていました。たまたま野球場からボールがネットを超えて飛んで来ると身の危険を感じたものでしたが、後で聞くとそれは元中日ドラゴンズで活躍された彦野利勝さんが打ったボールであったりもして、その頃からあのパンチ力は健在であったようです。また、ゴルフ部では4つ年下に桑原克典プロがおり、毎年行われるOB会ではいつも活躍を期待されています。

私が大学4年生の時に父が心臓病で倒れ、その合併症から脳梗塞を患いました。私は学生時代から父の代役を努めなければならない立場となり、就職活動もできず、そのまま卒業と同時に今の会社に入社しましたが、振り返ると当時の未熟な私をたくさんの大人たちが叱咤激励で支えてくれました。その方々には今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

脳梗塞の後遺症から52歳の若さで車椅子の生活となった父と、創業当時から父を支えてくれた番頭さん2人、そして未熟な私の4人で20年ほど会社経営を行ってききましたが、7年前に父が他界。番頭さんも次々と年齢的なリタイアとなり、今は新しい経営陣と日々を勤しんでいます。

弊社のメーカーが海外ということもあり、グローバルなネットワークを持つ関係で学生の頃からたくさんの国を訪問しました。思い出深いのはまだ大学生であった頃、父の名代で行ったラスベガスで「シーザースパレス」という有名なホテルに宿泊しましたが、そのホテルの部屋の広さとファッションホテルのようなレイアウトと豪華さに驚愕しました。もちろんカジノにもチャレンジしましたが、ルーレットよりもバニーガールに目が行ってしまい、集中できなかった記憶があります。

今回の紙面では新入会員アワーでお話しできなかった面を少し書かせて頂きました。

ご一読ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

第11回理事会

- I 会長挨拶 〈会長〉
- II 議題
 - 1. 5・6月のプログラム(案)について
 - 〈クラブ奉仕委員長〉
 - 〈プログラム委員長〉
 - 2. 夕食例会について
 - 〈クラブ奉仕委員長〉
 - 〈親睦活動委員長〉
 - 3. 新入会員について 〈幹事〉
 - 4. 職業表彰について 〈職業奉仕委員長〉
 - 5. カキツバタ支援金について 〈環境保全委員長〉
 - 6. 事務局ゴールデンウィーク休暇中の緊急連絡先について 〈幹事〉
 - 7. その他
- III 会場監督の所見